

2014年度 第98回兵庫高教組定期大会 特集号

5月24日(土)、神戸市勤労会館308号室において第98回定期大会が開催され、全ての議案が圧倒的多数で可決・採択されました。今大会では次世代の息吹が感じられる青年代議員からのフレッシュな発言や、安定感のあるベテラン代議員からの原則的な発言等、総勢20人からの熱い思いがお互いを刺激し合い励まし合いながら討議が深められました。そして、第2次安倍内閣のもとですすめられようとしている憲法改悪を阻止し県民の生活を守ること、「競争と管理」の教育ではなく、子どもたち一人ひとりを人間として大切にしていける教育の大切さについて語り合い、また、そのためにこそ私達の組織をより強固なものにしていくという決意を新たにす大会となりました。

中央執行委員長のあいさつ

雨松康之

安倍暴走政治はどこに向かうのか？

解釈改憲による集団的自衛権行使の正当化、秘密保護法、公約違反のTPP推進、消費税率引き上げ、原発推進など一つ一つをみれば国民の多数が反対しているにもかかわらずなぜ安倍内閣が高い支持率を維持できているのか、どうすれば安倍政権に終止符を打てるのか。

日本の経済力、企業の国際競争力の低下は明らか。このため財界は、多国籍企業の競争力強化のための規制緩和と国民の生活保障のための予算削減を強く求めている。また、アメリカは、アフガン、イラク戦争の失敗と自国の財政難によって日本に対して軍事的な肩代わりを強く求めている。保守政権が財界とアメリカの要求にまともに応えようとすれば憲法25条、9条の変更、すなわち明文改憲が必要な段階に立ち至っていることは間違いない。

安倍政権は、復古主義が弱肉強食の新自由主義と結合したことによって、一気に憲法の壁を乗り越え、憲法を敵視、無視した「安倍暴走政治」が生まれているといえる。そして、もう一つ安倍政権を突き動かしているものが、経済大国、日本がその地位を失っていくことへの苛立ち。安倍政権は、アベノミクスによる国際競争力の復活と集団的自衛権行使をとまなう日米同盟の強化によって再びアジアの盟主の地位を取り戻そうとしている。ナショナリズムに突き動かされている点で安倍政権は従前の政権と明らかに質的に異なっている。

では、安倍政権に明確な戦略があるかという、きわめて場当たりの。14年度予算では消費税が所得税、法人税収入を上回り、国、地方の借金も1000兆円を超えてしまったが、結局賃金は上がらず、出現したのは、株と土地の小バブルと莫大な借金。そして、一部富裕層にいつそう富が集中し、貧困と格差が拡大しただけ。そして、最も深刻な問題は「異次元の金融緩和」。すなわち日銀が一万円札を印刷し、国債や株、土地を購入する政策に手を染めたこと。一万円札のばらまきを止めると一気に景気が冷え込むから麻薬と同じでもう止められない。毎年100兆円のお金をばらまき続けければ、いったいどのような破局が訪れるのか想像もできない。

「安倍暴走政治」をストップできるのか？

今様々な分野で一点共闘が進んでおり、かつてない規模の運動となっている。運

動の力は創価学会の集団的自衛権行使反対表明や大飯原発差し止め訴訟における司法判断にも影響を与えている。しかし、大きな問題は、要求を実現するための政治勢力がきわめて小さいということ。国民的な政治戦線、すなわち統一戦線の結成が急務となっている。一点共闘を統一戦線運動に発展させることで「安倍暴走政治」を終わらせ、憲法を活かす新たな政治を生み出すことが可能になる。

高教組運動の新たな形態

高教組は新たな形態での組織活動を開始した。中執会議を月一回とし月単位の活動に切り替えた。目的は、一人一人の組合員の力に依拠した取り組みを強化することにある。組合員の減少によって中執会議で決定したことが半数以上の分会に伝わらない状況がここ数年続いている。執行員会に参加できないためにいわば「放置」されていた組合員に月ごとの課題を明確にし、確定闘争時のように活動してもらおうというのが新たな組織活動の目的。

本部段階では、課題を絞り込み、月ごとの重点課題を明確にする努力を開始した。支部は、執行委員会の回数を減らし直接分会を訪問し普段「放置」されていた組合員と会い日常的に連絡が取れる体制づくりを進めている。

これから、月2回の全教職員配布のニュースと全県一斉に取り組む重点課題を目に見える形で前進させていきたいと考えている。多忙な職場にあっても高教組組合員としての自覚を持ち、全県の仲間とともに要求実現のために頑張りたいと思っている組合員に依拠した活動に思い切って切り替えたい。そして、日常的に高教組組合員としての誇りを持ち活動する組合員が、青年教職員に加入を訴える。そのような状況を一日も早く作り出したい。一人一人の組合員を信頼し、一人一人の組合員に依拠した活動を進めることができれば必ず大きな前進を勝ち取れると確信している。



北村佳久全教委員長 森栗強兵庫労運副議長 きだ結果会議員 岡田恭治兵庫高教組副委員長



発行所
神戸市中央区北長狭通5-2-10
兵庫県高等学校教職員組合
TEL 神戸(341)6745~6747
E-mail
honbu@hyogo-kokyoso.com
http://www.hyogo-kokyoso.com
発行人 兵庫県高等学校教職員組合中央執行委員長
雨松 康之
編集人 梅林 真道

定価 1部 20円
半年分 120円
組合員の購読料は組合費含め徴収

定期大会特集号

組合加入のご相談
や組合に対するご
質問、全教共済に
ついてのご質問は、
高教組本部に気軽
にお問い合わせ下
さい
TEL 078-341-6745



開会宣言をする松岡副委員長

発言(要旨)

副読本『世界と日本』問題等について

尼崎工業分会 桑田誠代議員

昨年度、県教委は特定の日本史教科書について採択通知を現場に初めておろし、年度末には副読本「世界と日本」の購入を実質的に強制した。これらは、第1次安倍内閣の強行した改悪教育基本法の路線を、県が

「兵庫教育創造プラン」に沿って行っているものに他ならない。必ずしもねらい通りには進んでいないが、高教組の役割は、なぜそういうことが起きているのか、背景やねらいを現場の先生方に伝え、現場を励ましていくこと。第2次安倍内閣が壊憲の動きを強めている今、高教組の役割はますます重要だ。

情勢をどう見るか

西宮南高校分会 福住宏之代議員

教育委員会制度の見直し法案が成立すると、権力の教育介入がストレートに学校教育を破壊する。西宮では、隠れ維新といわれる新市長が橋下氏ばりの公務員組合攻撃と教育攻撃を企図しており、市の施設から組合事務所を追い出すことまで計画している。少数与党なので来年の一斉地方選挙が大きな闘いとなる。職場には危機感があるとは言えないが、問題点をしっかり情宣し、大いに話題にして、その中で組織の拡大も図っていきたい。

「学区拡大」反対の取り組み

浜坂分会 佐々木孝代議員

学区拡大反対の取り組みは但馬で大きな流れを起こした。しかし、県教委は結論ありきでH27年度から5学区を実施する。但馬では連携校方式を残すという話だったが、単に6%が18%になっただけ。同時に複数志願制も実施され、第一志望加算が30点あるそうだが、他学区の加算点と異なる。この差は何なのか？ 少子化の上、学区拡大は受験競争を助長し、学校の序列化、統廃合、ひいては地域の過疎化につながっていく。地域の学校を守るために頑張りたい。

学区拡大反対の取り組み

明石清水分会 岡本匡史代議員

昨年9月の明石市議会に複数志願制における「その他校制度」の存続などを求める意見書の採

択を請願した。全会派に説明に回り、採択される見通しであったが、状況は一転。賛成少数で否決された。市教委ですら入試制度について理解が不十分であることがよくわかった。議員に対してもっと密に働きかけること、父母や地域住民等の他団体との共同の取り組みにすることの必要性を感じた。全国的には学区拡大が統廃合に結びついている。今後、開門率等も注視し、問題点を集約して改善につなげていかなければならない。

たくさんの課題あり！！

尼崎北分会 柄尾三一代議員

教員評価・育成システムには多くの問題がある。自分の評価がどうなっているのか意識を持つことは大切なこと。福島裁判にも関心を寄せてほしい。7月14日の初公判には県の人事がどうなっているのか明らかにすることを期待している。

また、主任手当の拠出については曲がり角に来てはいるが昨年度も260名以上の生徒に給付し喜ばれており今年も取り組みたい。課題は多いが頑張りたい。

県農分会の強配について

高砂南分会 松野吉高代議員

異動について昨年の秋から校長交渉を繰り返していたが、具体的な校名、地域明らかにされなかった。支部からも「異動はないという認識で次年度の準備をする」と申し出た。校長はすぐに県教委に相談に行ったということだったがはっきりした返事はなく、結局内示日に突然学校名が告げられた。現在は人事委員会に不服申し立てを行っている。

支部と分会の結びつき深めたい

飾磨工業分会 西山和広代議員

中播支部には21の県立高校がある。多くの分会が支部に結集できていない中で、未結集分会の組合員と支部役員とがこれまで一度も会ったことも話したこともない、という状況になってしまっている。そのような中で、一人の役員が7つの分会を訪問してくれた。対応してくれた組合員の反応はとてもよく、わざわざ来てくれてありがたいというものだった。今年こそは、支部と分会の結びつきを深めるため、あと2回程度は節目の時に組織的に訪問したい。

青年部アンケートの取り組みについて

宝塚東分会 森克也 青年部特別代議員

初任明けの転勤の問題、教員採用試験、常勤・非常勤講師の労働条件、子育て支援の改善等、青年教職員には青年独自の要求や課題がある。初任明けの転勤については、機械的ではなく、本人の希望や家庭の事情等を丁寧にヒアリングした上で行うことを県教委に要求している。また、多くの講師の方々からの「毎日膨大な校務に追われ、年休や代休も消化できず、採用試験の準備のために十分な時間を取れない」という声や、常勤講師については空白の一日問題や勤務雇用を求める声、非常勤講師については35週の範囲内で実態に応じた賃金を支払ってほしいという声等は切実。仕事と子育ての両立も青年教職員にとって大きな問題である。青年教職員の困っている声をよりリアルに県教委に伝えるため、アンケートを実施し、数値的データを県教委に示すことを考えている。このような取り組みを通して、組合活動の意義・必要性を末組の青年教職員に知ってもらい、その結果として組織拡大に結びつけられるように活動をしていきたい。

3. 29青年部東京動員ツアーに参加して

県立農業分会 酒井優希代議員

3月28日から29日にかけて、青年部東京動員ツアーに参加した。非常に新鮮で貴重な経験だった。靖国神社の歴史的背景について深く学ぶことができ、第五福竜丸展示館では核のない平和な世界の実現に向けて、多くのことを考えさせられた。反原発集会にも参加したが、これまでメディアなどを通してデモやパレードの様子を見たことはあっても、大勢の警察官が厳重に警備する中、自らの思いを訴える様子を見るのは初めてで、かなりの大迫力と熱気であった。2日目の午後からは、日比谷野外音楽堂にて「3・29全国学習決起集会」に参加し、日本の教育や平和について様々な方の熱い思いに触れ、(これだけ人って熱くなれるんだ)と感じた。日本全国にこんなにも多くの仲間がいて、共通の思いのもとで団結できるということに、大きな嬉しさを感じた。集会の後の銀座パレードがおこなわれ、シュプレヒコールを初めて体験した。この経験を次にいかし、青年部の一員として積極的に組合の活動に取り組んでいきたい。



発言(要旨)つづき

賃金権利手帳の有効活用を

東灘分会 松本誠司代議員

自分にとって賃金権利手帳は「目から鱗」だった。自分は民間で2社経験しており、新卒時、転職時にいずれもオリエンテーションで人事から待遇や条件について詳しい説明があった。おそらく、待遇条件についてアナウンスすることは、世間の常識のはず。しかし、常勤の時も初任研でも説明はなく違和感を感じていた。それがこの手帳には全て大切なことがつまっている。初めて教壇に立つ教員や年度末に採用が未定の非正規の教員などにとっても、この手帳の内容は知っておくべき情報と感じている。この手帳を活用して、一人でも多くの先生方にプラスになればと感じている。



採用を目指す学習会に参加して

八鹿分会 合田有沙代議員

講師1年目は、学校という世界は、教室と自分のデスクの往復でしかなかった。焦りはあったが、相談相手もいなかった。そんな中で組合の学習会のチラシを目にし、不安もあったが行ってみた。教室とデスクの世界しか知らなかった私にはとても刺激的であり、たくさんの他校の先生方と横のつながりも持てたし、組合の先生方の熟さを知ること、自分の中にも教育に対する熱意というのが芽生えた。そんな中で、これだけ臨時講師のために頑張ってくださっている組合の先生方と一緒に、自分もこれから活動していきたいと思うようになり組合に加入した。最初の初任者研修では、兵庫県の教員として、また一労働者として、組合のことを知ってほしい、加入してくれるのもっといい、そんな気持ちで、組合の先生方と一緒に初任者にチラシを配った。初任者は組合についてほとんど何も知らないという人が大半なので、若い世代に組合の必要性を訴えていくことも課題だなと感じた。これからも組合の活動で色々勉強をして、若い世代の加入率を高めていけるような活動ができればと考えている。



女性部の活動

姫路工業分会 松本実可代議員

今年は三年に一度のアンケートの年。「女性部連絡袋」の封筒が分会に届く。常勤、正規の人対象。女性分会員のいない所も男性に協力していただいて実施したい。権利リーフも掲示用を作ったので活用してほしい。職場では、小さな子どもをかかえてこのままでは働き続けられないかも、と悩んでいる同僚がいる。職転入して慣れない仕事を頑張っている人もいる。女性部の活動はもちろんのこと、自分も含めて身近な人たちが働きやすい職場になるように頑張っていきたい。



介助員全員の雇用を守る

いずみ野特別支援分会 原田文孝代議員

姫路特別支援学校の介助員さんの雇用が守られたのは、介助員全員が組合員であって、一致団結して自分たちの生活と権利を守ったからである。これが労働運動の原点であり、大切にすることがある。また、父母と共同で「新設校を語る会」をつくり、学校づくりを話し合った。スクールバスの民間委託問題で署名や県教委交渉も行った。今後も父母と共同の運動が必要で、障教組として重点的に取り組みたい。インクルーシブ教育の流れで、高校の特別支援教育の在り方の検討が求められている。



特別支援学校で初めての再任用短時間勤務

いずみ野特別支援分会 宮崎智子代議員

昨年10月15日、再任用制度に関わる県交渉が100名を超える交渉団で行われた際、特別支援学校での再任用はフルタイムしかないので、県立の高校と同じように短時間勤務を認めてほしいと発言した。県教委、校長はまだ時期尚早、これから研究していきたいと繰り返すばかりだったが、無年金期間が生じるという問題もあり後には引けず、校長にも文書を提出した。結局「職員団体の厳しい追及により特別支援学校での短時間勤務(23時間15分)を試行で認める。」ということで3月20日に内示もらった。15時間30分の補充教員も認められた。再任用制度は定数の枠外で措置されることが望ましいが、今後どんな働き方がいいのか、みんなが自分のこととして考えていくことが大事だ。



但馬北西部に新設される出石特別支援学校の分校について

出石特別支援学校分会 松島誠司代議員

来年4月、出石特別支援学校の分校が、特別支援学校の空白地域であった但馬北西部に新設される。このことは地域住民の悲願であり、運動の成果でもあったといえる。近年、特別支援学校の新設について、スクールバスの民間委託がなされてきている。様々な問題点が浮き上がり上がってきているが、児童生徒の安全安心の確保のためにも民間委託には強く反対する。また介助員の皆さんの雇用についても、希望する方全員の雇用確保を強く求めていく。今後情報収集に努め、よりよい分校がつくっていくようにがんばっていききたい。



日々研修について

川西分会 初谷幸雄代議員

夜間定時制高等学校においては、生徒が登校するまでの時間帯で、授業や校務一般に支障がなければ、校長がその内容等を判断して「研修」が承認されている。その日々研修(通称)が、教職員課長の独断決裁で実質上、禁止状態にあり、その不合理性・違法性を追求するために撤回を求めて提訴した措置要求が受理され、現在審理が行われている。春には出るはずの判定が未だ出ず、措置要求としては審理が長期に及んでいるが、この判定が長期休業中の「自宅研修」阻害の動きの阻止に寄与し、先生方の利益に還元されることを祈って止まない。



普通科実習教員の正規採用をいまずぐに

川西明峰分会 池田千晶

実習教員部特別代議員

多くの普通科では、実習教員が1名しかいない。しかもほとんどが、理科と図書あるいは理科と家庭科といった兼務だ。さらに、正規採用は10年ほどいない。2年あまりで転勤していかざるをえない臨時の実習教員は、専門性を身に付けることができない。例えば、研修を保障され、経験を重ねた正規の理科の実習教員ならば、実験の準備はもちろん、未経験の実験にも対応でき、高校時代に実験をしてこなかった新人の理科の教諭にレクチャーすることも可能だ。「生徒に実体験の場である実験をたくさん保障したい。」臨時の実習教員も組合員に迎え、組合員を増やして、実習教員の正規採用実現に繋げていきたい。



新採用者の加入

東灘分会 永易茂雄代議員

私達の「働き方」が「働かされ方」に変質して久しい。教頭が4月当初の職員会議で「先生方の一生懸命に働いてくださる姿に感動する」と述べ、続けて「ノー残業デーには、せめて7時半には帰しましょう」というとんでもない発言があった。新着任した校長も「たいへんよく働いてくださってありがたい。」と発言。私は「過労1過労2過労3までは耐えられる。しかし過労4(死)になったらお終いだ。」と発言した。それを聞いた新採用者の一人が「賛成です。」と言ってくれ、組合に加入してくれた。



常勤の先生方に関する取り組みについて

兵庫商業分会 橘和雄代議員

高教組の取り組みで、市高では「採用試験対策講座」が好評。常勤の先生方からは「とても役に立つ」と感謝の声が寄せられ、また、年配の教員は「若者を使い捨てにさせない」という本気の取り組みに感銘を受けている。ところで、常勤の先生方については、「空白の1日問題」がある。この問題が国会でも取り上げられ、近畿圏では兵庫県と神戸市以外は解決の目途がたっているようだ。今年は、ぜひ高教組と協力し、この問題を解決したいと思っている。



新分会紹介！姫路しらさぎ特別支援分会

分会長：黒田 充治さん



姫路特別支援学校の過密解消によって、今年度4月に姫路しらさぎ特別支援学校が新設されました。様々な問題を抱えたスクールバスの民間委託反対署名や組合全入の介助員の雇用問題の取り組みがありました。民間委託は阻止できませんでしたが、介助員の全員雇用を勝ち取ることができたという経緯を経て、12名の仲間で結成しました。職種の違いはありますが、一致団結して働きやすい職場・子どもたちが生き生きと輝く学び舎をめざして頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。



小野副委員長による閉会宣言



力のこもった「団結ガンバロー」

特別決議「高教組を拡大強化し、憲法がいきる社会を実現しましょう」

2012年末、総選挙で「強い日本を取り戻す」と掲げて成立した第2次安倍政権は、構造改革路線の「アベノミクス」を支持する財界と、マスコミの演出の下で国民に景気回復の期待感を持たせた高支持を背景にして、「日本国憲法」改悪の策動を進めています。

秘密保護法の制定の後、尖閣問題をめぐる中国との対立を国内外で一層煽り、日米軍事同盟の強化と集団的自衛権行使で「戦争をする国」に突き進んでいます。

法人税減税と並行して進められている消費税増税、国内産業と地域経済をグローバル経済の下で破壊するTPP参加などを、多くの国民の反対にもかかわらず推し進め、あわせて労働時間上限撤廃や限定正社員の導入など、労働者の生活破壊を加速する政策を推し進めています。

教育の現場では、実教出版の日本史教科書などへの教科書採択を政治的圧力で阻止しようとする動きや、教育委員会制度を首長の意向のままに変える動きなど、民主的な教育への攻撃は教員評価制度とあわせて強引に進められようとしています。

これらは、人類の不断の努力で獲得されてきた基本的人権と国民主権、未曾有の加害と被害をもたらした先の大戦の反省を込めて作られた平和主義を明記した「日本国憲法」の否定と攻撃であり、看過できないものです。

一方、井戸兵庫県政は、第三次県行革で、高齢者、生活保護世帯への医療費の引き下げと、不急の大型公共事業の推進を打ち出し、安倍構造改革路線を地方レベルで推進する立場を明確にしています。また、県教委による高校通学区の拡大も、「選択の自由」によって自己責任で高校を選択させるとともに、一部の学校への予算の重点配分を行いはじめました。教育の機会均等を唱える「日本国憲法」の理念に合致していません。

しかし、憲法と生活を守ろうとする動きは、反原発、反TPP運動にもみられ、時事通信の5月はじめの世論調査で、集団的自衛権の行使容認に反対50.1%、と賛成37.0%を大きく上回り、政府与党の中でも慎重論が出ています。労働法制の改悪には、ブラック企業を許さない世論の形成が作られつつあります。これらの国民的な運動に私たち高教組も一層の積極的な連帯をすすめる必要があります。

兵庫の教育現場では、団塊の世代にかわって若い教職員が増えています。「より良い授業をしたい」という気持ちは世代を超えて変わりません。その気持ちを踏みにじるような機械的な新採用教員を中心とした人事異動には、大きな不満が蔓延しつつあり、長時間労働や賃金が生活実態に即して上昇しないなどの不安も増えています。

私たち高教組が、今こそ世代を超えて職場の仲間に声をかけ結集するべきときがきています。その過程を通じて教育に対する攻撃を跳ね返し、さらに広く国民的な運動に加わることで、現政権が目指す、国民主権と基本的人権の制限を阻止し、平和主義を守り、日本国憲法をより体现した社会の構築を目指すことが可能となっています。

安倍「教育再生」を阻止し、教育を「不当な支配」から守るため、仲間を増やし要求を前進させましょう。

2014年5月24日

第98回兵庫県高等学校教職員組合定期大会

メッセージをいただいた方々

(順不同・敬称略)

〈全教関係〉
北海道高教組・青森高教組・秋田高教組・茨高教組・埼玉高教・梨高教・新潟公立高教組・浜高教・富山高教組・長野高教組・岐阜教組・愛高教(愛知)・京都府高・大阪府高教・和高教・岡山高教組・山口県高教組・香川高教組・愛高教(愛媛)・佐高教組・長崎高教組・全教滋賀教組・京教組・和歌山県教組・都教組
〈県下労働組合・民主団体等〉
兵庫県国家公務員関連労働組合共闘会議・兵庫自治体労働組合総連合・兵庫県医療労働組合連合会・神戸中央区労働組合協議会・全日本建設交通一般労働組合兵庫県本部・ネスル日本労働組合神戸支部・東播建設労働組合・神戸合同法律事務所 弁護士 前田修・松山秀樹
憲法改悪ストップ 兵庫県共同センター・新日本婦人の会兵庫県本部・日本機関紙協会兵庫県本部・日本共産党兵庫県委員会・日本中国友好協会兵庫県連合会・兵庫県商工団体連合会・兵庫県農民運動連合会・兵庫県母親大会連絡会・兵庫県保険医協会・兵庫県民主医療機関連合会・兵庫県民主法律協会・兵庫障害者連絡協議会・兵庫県社会保険推進協議会・平和・民主・革新の日本をめざす兵庫の会・阪神・淡路大震災救援・復興兵庫県民会議・憲法が輝く兵庫県政をつくる会(自治体)
神戸市教育長 雪村新之助・芦屋市長 山中健・伊丹市長 藤原保幸・宝塚市長 中川智子・川西市市長 大塩民生・三田市長 竹内英昭・明石市長 泉房徳・三木市長 藪本吉秀・高砂市長 登幸人・加西市長 西村和平・加東市長 安田正義・多可町長 戸田善規・相生市長 谷口芳紀・たつの市長 栗原一・赤穂市長 豆田正明・福崎町長 嶋田正義・上郡町長 遠山寛・神河町長 山名宗悟・豊岡市長 中貝宗治・香美町長 浜上勇人・朝来市長 多次勝昭・篠山市長 酒井隆明・淡路市長 門康彦・南あわじ市長 中田勝久

どうもありがとうございました。